



潮流



大津島データ 194世帯
人口 282人 男114人 女168人
高齢化率 79.1%
(平成28年11月30日現在)

題字：六郎万淳一さん イラスト：まゆみさん

あけましておめでとございます。
皆様には健やかに
新年をお迎えのことと
お慶び申し上げます。

昨年は小学校や幼稚園が休校になり、地域の行事の開催が危ぶまれました。自分たちの学校を守り、地域の行事を継続しようとの皆様の熱意を受け、文化祭、また運動会は防災運動会と装いを新たに開催することができました。いずれも今まで以上に盛大に、多くの方に楽しんでいただきました。これもひとえに、地域の皆様や若潮の会のご協力があればこそ、改めてお礼申し上げます。

本年は、
私たちの
身近な暮
らしを守るため、また、若い世代に島を受け継ぐための取り組みも皆様と共に進めてまいりたいと思います。引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



新しい年が皆様にとって幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶いたします。

平成29年 元旦

大津島地区コミュニティ推進協議会

会長 安達 壽富
事務局長 神谷 正幸

若潮の会通信

新年明けましておめでとうございます。
ポテ丸です。
ゆるキャラが全国ブームの時代にポテトマラソンのマスコットキャラクターを形にできないかと思っていた2年前、ある人に話を持ちかけた事からポテ丸作りが始まった。途中「私も中に入りたい」と言いだしシリーズ作りも始まった。

当日、出来上がって初めて中に入るが、どの様に見えるだろうか。喜んでもらえるだろうか。いろんな事を思いながら選手の皆さんをお出迎えるために、棧橋に向かった。船から降りてくる親子づれ、グループの皆さんが次々と記念撮影をしていく中、小さな



ポテトマラソンにて

男の子が「これホンモノ？」と親に尋ね握手をしてきた。すると「これ人間の手じゃ、ニセモノじゃ」と言われ「本物って何、偽物って何」で、思っている女の子が手のひらにある玉を置いてくれた。でもどうする事も出来ないまま握りしめていた。改めて子供たちの純粋な心を見た一日であった。更なるバージョンアップを決意し名前を名付け昨年文化祭で島の皆様にお披露目することに至りました。

これから、大津島のゆるキャラとして活動していくと思ひますので応援よろしくお願い致します。「目指すは、くまモン」。

ポテ丸&スイーシー

行事報告

11月と12月の島のできごと（一部）を写真で振り返ります。

11/3

大津島地区文化祭
大津島地区コミュニティ



11/26, 27 アイランダー2016
東京・池袋サンシャインシティ
大津島地区コミュニティ
※次号潮流で特集予定です。



12/4 ポテトマラソン 実行委員会、文化スポーツ課



11/15 地域紹介動画撮影
市地域づくり推進課
※市内各地区の紹介動画の大津島版を撮影しました。
2/11 建国記念行事で放映予定です。



■この度、整備されたきっかけは？
安達勝一さんイノシシがお地蔵さんごと法面を崩してしまったので、敏夫さんと寿男さんに相談しました。結局は無理を言って一緒に修繕してもらうことになりましたが、年末の奉仕作業の予定もあり、すぐに取り掛かることにしました。
■費用や道具はどうされたんですか？
安達勝一さんあるものを持ち寄ったので、費用はかかってないです。道具も家にあるものでやりました。
最終的には、自治会の皆さんに手伝ってもらったので、できたのだと思います。天ヶ浦は、ご高齢の方がほとんどですが、若いころに石工をやっていた方もいて、プロの技術もふんだんに持ち寄ってもらいました。みなさん元気ですよ。
■きつと皆さんの想いに、お地蔵さんも喜んでおられるでしょうね。



とびっく
「天ヶ浦のおじょうさん」
ご存知の方も多いと思いますが、天ヶ浦の市道沿いのお地蔵さんの着座が、新しく立派になりました。安達勝一さんにお話しをうかがいました。



ヤマトリ雑記帳

文＝嶋末由紀

ざっきちよう【雑記帳】秩序だてずいろいろなことを書きつけておく帳面。英 a notebook

NO.3
きんかんと子ネコ



どちらも 大津島うまれ
どちらも 大津島そだち

そして どちらも

ちっちゃい まあるい かわいいな

壽富さんちのきんかん&しま子ネコ

湾山徳見聞録

1. 大島半島のレンガの煙突

文川回天記念館

三崎 英和

回天基地があった当時の写真は数多く残されていますが、その中に回天を載せた潜水艦が出撃していく写真もいくつかあります。

その画像が撮られた場所（海域）を確定するには、背後に写っている山や島を特定すれば可能ですが、一枚ほどの背景から大島半島の南端から給島の沖合いで撮ったものと思われるものがありました。

大島半島の南端といえば、日本精鑛の裏山にある、あの煙突が特定材料となることから、日本精鑛に電話をして、いつ建てられたかを聞いたのです。

すると電話に出た方は「調べますので少し待ってください」と返事をされました。

そののち返事の電話があり「あの煙突は当社のものではなく、建てられたのは戦前です」との回答。

「えーあの煙突、日本精鑛のものではないんだ！」。これまででつきり同社のものであると思い込んでいたのが驚いてしまいました。

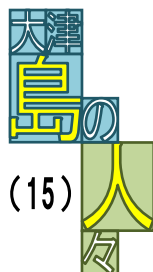
また、戦前に建てられたものであることから、写真の撮影場所が大島半島の沖なら、煙突が写っていないてはいけません、それがない。

結局、場所の特定が出来なく保留となっています。

【ご挨拶】

この度、編集委員をさせていただくことになりました。生まれも育ちも福川なので、大津島には子供の頃からよく来ていましたが、島に住まれている方とのネットワークはあまりありません。このコミュニティ紙を通して、皆さんや大津島のことをもっと知ることができればと思っています。

三崎 英和



ご退任

(15)

民生委員の役員改選がありました。ご退任の石田さん、武田さん、ありがとうございます。新任の中村さん、石田さん、よろしく願います。

石田久子さん／刈尾地区

六年間があつと言つ間に過ぎました。島の色々な行事や、市の民生の交流会や会議などに参加して友達が沢山出来ました。これも皆様の暖かい応援があったからです。色々と有難うございました。



武田頼子さん／近江・瀬戸浜地区

初めての訪問では、幾分か緊張していましたが、皆さんが暖かくてほんとうに嬉しく有難かったです。六年間、貴重な体験と色々な事を学ぶ事が出来、感謝しております。ありがとうございました。



ご新任

中村キミ子さん／近江・瀬戸浜地区

武田頼子さんから引き継ぎ近江・瀬戸浜を担当することになりました。よろしく願います。気軽に声をかけて下さい。



石田幸子さん／刈尾地区

このたび民生委員をお受けすることになりました。みなさまが住み慣れた地域で、安心して生活ができますよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



お知らせ

【島の行事予定】

1月29日(日) 砲台山整備
2月11日(土・祝) 建国記念行事

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

預託者 石田ヒナエ 様
ご遺族 石田邦男 様の香典返しとして
金5万円(市社協1万円、大津島社協4万円)

移動図書館 【やまびこ号Jr.】

1月25日(水)、2月22日(水)、3月18日(土)

馬島巡航待合所 11:30~12:00

刈尾巡航待合所 12:20~12:50

【編集後記】

新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。春から潮流の編集にかかわらせていただくようになり、毎号発行に追われながらバタバタと作成してきました。新年の目標はもちろん・・・今年こそは頑張ります！
文責：神杉朋史

知っちょるかね

フラホ(大漁旗)のこと

文川松本千恵子

島の正月と聞いて、まず思い出されるのが、大漁旗の波。港にぎっしりと繋がれた漁船や石船のマスに飾られた色とりどりのフラホが翻っている様は、ほんの少し前までは、島の正月の風物詩じゃったね。今では港の中は漁船の姿もなく、たまにスナメリが入ってくるような静かな海じゃが、ほんのこないだまでは、遅う帰ったら繋ぐにも入り場がのうて、ケン力になるほど船がひしめいちよった。その漁船が、正月休みにそなえて、山から若松と青竹まだ固いつぼみの梅の枝を持ち帰り、年末の吉日を選んで、マストの先に括りつける。その下に日の丸を、その下に船名の入ったフ

ラホを結ぶ。正月の港には、その色とりどりのフラホがはためいて、そりゃあ見事じゃったねえ。他にも、島を挙げての運動会やポテトマラソンには、フラホを飾って景気づけをした。小学生はフラホで縫って貰った法被で、運動会。ダンスや平家踊りを踊ったし、市の音楽祭にも出演したりもしたね。背中にちよつど、跳ねた鯛や、短冊が来るように、母親やばあちゃんに作って貰った法被姿の可愛いかった事。

フラホで布団も作っていたとも聞いた。なんて景気のいい。どんな夢が見られたじやろうか。現代の若い人達はさぞや羨むと思うね。と、まあ、フラホを語ると、話は尽



きんのじゃがね。それに付けても、正月の港に風にはためくフラホのさまをもう一度見たいと思うのは私一人じゃあないと思うがねえ。

ひろしのつぶやき

文川屋野廣志

12月8日、息子の車で医療センターへ私の股関節の治療処置の説明を聞くため防府に向ふ。車中ふと75年前の12月8日を思い出す。真珠湾奇襲の日だと。75年の歳月の過ぎし早さを。明治維新から150年とならば頂度真中となる75年の時、維新の話など遠い遠い昔し話と思って居た。日露戦争からは40年だ。乃木大将も東郷元帥も講談社の分厚い絵本の物語として読んだ僅か40年前の事を。原子爆弾から70年、戦後の生れ平成生れの青年達は、明治を思ふ私の様な昔し話の感覚で捉へてはいまいか。悲惨な戦争の実態を知る者も少なくなつた。絶対に戦争も貧困も避けて通らねば。

社会保障医療保険の充実した今、私の股関節の高額治療も大勢の方々の保険と国の支で、私の手の届く支出費で受ける事が出来る。有難い事だ。医師も看護師さんも、付添いなる息子に全は伝へ、隅に置かれた私はすでに社会の粗大ゴミの姿と成果てた。85才の此の体に余命幾か程ぞと思ひしも、施術とは此の上なき感謝なり。高額の治療費も、国の大きな負債赤字も全ては次世代の息子や孫達に委ねる事になる良き世代に生き、良き時代の限なく続く事を念じて。ひろしひとりつぶやく。

※原文のまま掲載しています。